

平成27年 2月  
号外(ろ)



山家神社社務所  
sanadashrine.com/yamaga  
〒386-2201 上田市真田町長 4473  
Tel.0268(72)5700

# 山家 慎閑

## 山家郷塾理念

一、自然の恵みと祖先の恩とに感謝し、日々お蔭さまの心を以て郷生の道を歩むこと  
一、地域の歴史・文化・伝統を学び考へ今を照らし、故郷の振興と再生を図ること  
一、永遠と続く歴史の中にある今を意識し、祖先から受け継いだモノを守り伝えること

## 不易流行

水は生活に欠かせない、万人に恩恵を与えるもの。

この信濃国では山は特別な存在です。古代人は山と真剣に向き合ってきました。そこには恵みだけでなく、危険も含まれています。生きるために必要不可欠な日々の恵みへの感謝の心、そしてその大きすぎる自然の力に対する畏敬の念。この二面性が山家神社の根っこであります。

何のご利益ではなく素の姿、過不足ない自然体で素直な心それが形をもち今に続いているのが四阿山頂上奥宮を基点とする信仰です。

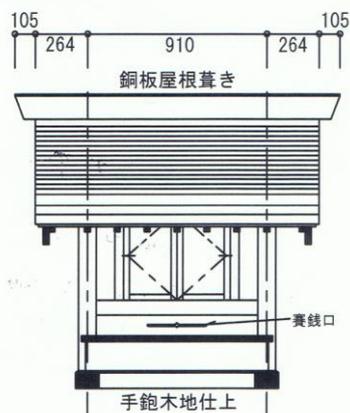
世の中の気風が悪くなって人間らしく生きようと思う人が減っても、消え失せることのないモノ。この移ろい易い人の世にあつて、絶やしてはいけないモノ。伝えていきたいモノ。それが今回の造営につながると思います。

昔と変わらぬ恵みはもたらされているのだから。押森慎

## 荷上ボランテニア募集

平成二十七年五月三十一日(日)六月一日(月)

日本百名山の一つ 四阿山 あずまやさん 二三四m 開山祭(山家神社奥宮例祭)に合わせ造営資材を手運びにて運搬します。



総重量 235kg  
総数 90丁組  
0・7kg  
10kg  
※用材一つずつはたいした重さではありません

募集人数 100名以上  
連絡先 山家神社社務所へお問い合わせ下さい  
↓0268(72)5700

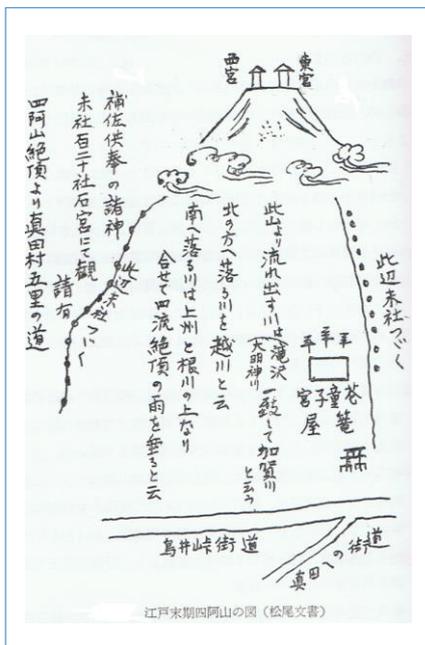
## 真田幸隆公御修営より453年 山家神社奥宮造営計画始動

社宝 古扉  
「奉修営」  
四阿山宮殿  
大旦那  
幸綱并信綱  
永禄五年  
壬戌六月  
十三日  
写真は  
昭和十三年  
六月一日



## ご造営の概要(ころ)

鉄筋ブロック造を木造(栗材)の社殿へ戻します。資材及設計は山頂の厳しい気象状況にも耐えられる工夫を(株)林工務店さんにお願ひしました。なぜ木に戻すかといいますと、形ではなく、大切なモノ、ご先祖様たちが自然と共に生きてきた文化や伝統を子孫代々へと伝えていくためです。氏子の皆様と共に想いのこもった、守り護られる社殿へと、資材を手運びで持ちあげる計画を立てました。真田の志を受け継ぎ伝えるため、是非ともご協力をお願い申し上げます。



水分(みくまり)の神 四阿山 百二十社の石祠在水豊かにして四流絶頂の雨を垂ると云う  
水流(山の恵み)が限りなく増え広がり、どこの地へも流れていく。それがあずまの由縁であろうか。  
「四流を以て水家柱太敷立て、蒼生永長の守護神と鎮め奉る」雨乞いの神 五穀豊穰の神  
寿命長延の神 家内安全の神 『四阿山縁起』  
往古より四阿山は真田の里をはじめとするそこから流れ出る神川水系一帯の守護神であります。